

# メンテにゅ〜す

発行：国土交通省近畿道路メンテナンスセンター、R3.7版

## ～ “橋梁点検ってどうやる？” ～

5月の「メンテにゅ〜す」で、さらりと『橋梁点検車とかを使って点検しています。』と触れていますが、実際の橋梁点検はどうしているのでしょうか？

実は、点検技術者の技術と努力がそこにはあるのです。

### ●最初に橋の周辺状況を見る！

5年一度の点検でも、前回の点検と周辺の状況が変わっているときがあります。新しい道路ができていたり、周りに建物が増えていたり、電線があったり、5年前とは全く環境が異なっているときがあります。その情報を点検前に調べています。5年たつと意外と変わっていることが多いのです。ちょっとした変化を見逃さない技術が必要です。

### ●点検方法を決めよう！

周辺状況を調べ終わったら橋梁点検を実際どうやって行うかを決めます。橋梁点検は橋のすべての箇所に、手で触れる距離まで近づく、「近接目視」が基本です。どんなに高いところにある橋梁も、海の上にかかっている橋梁も、高速道路と交差している橋梁も、全ての橋梁の、いたるところに安全に近づく方法を考えます。代表的な点検方法としては橋梁点検車、リフト車、足場、はしご、地上になります。道路の状況や橋梁の下の状況をよく見極め、様々な機械や点検方法の組み合わせの中から、最適な方法を選びます。



### ●いざ点検！その前に

点検方法も決まった、使う機械も準備ができた、さあ点検だ！の前にやる必要があります。橋梁は川にかかっていたり、道路を跨いでいたりします。川には川を管理するところが、道路には道路を管理しているところがあります。それらの管理者と橋梁点検の方法を説明し、安全対策など、安全確実な点検を行えるように話し合います。

## ●橋梁点検ははじめます！

一般の人が立ち入ることがない場所であればすぐに点検を始められますが、一般の人が通る道路の上で点検を行う場合は道路規制を行って、通行される方の安全確保を図りつつ橋梁点検を行います。交通量が多い道路や、高速道路を規制する場合は交通量が少なくなる夜に点検を行うこともあります。また、交通渋滞を少しでも少なくするために、多くの点検チームで同時に点検を実施することもあります。

写真 海上での点検（橋梁点検車を使用）



多くの橋梁を「正確」に「効率よく」点検するか、日々点検技術者は考えています。

## ●どんな点検をしている？

橋梁点検は橋梁に近づいて目視で何を見ているのでしょうか？

国土交通省の橋梁点検では、「管理者」が正しく点検ができるように、損傷の種類と名称、損傷度合の基準となる全国共通の『橋梁定期点検要領』を定めています。損傷の種類は全部で26種類！！

点検技術者は、わずかな変化、わずかな損傷を見逃さないために、点検ハンマーを片手に橋のいろんなところを叩き、目を皿のようにして髪の毛の幅程度のひびわれを探しています。見つけた損傷は、番号で損傷の種類を、記号で損傷度合を記録して、同時に写真を撮影しています。

また橋の下を一般の人が通行したり、利用したりする橋ではコンクリートの破片などが落ちることがないように、特に念入りに点検を行っています。

## ●点検の後はどうなるの？

点検した結果は「点検調書」として決まった様式に整理し、維持管理の基礎資料となります。これまで行ってきた点検調書も保存していますので、5年前、10年前の状態と、現在を比較することもできます。また、5月の「メンテにゅ〜す」でも掲載している健全性の診断でⅡ以上となり、補修が必要と診断した場合の設計資料にも活用します。

橋梁点検は学校や職場で行っている定期健康診断と同じです。誰もが安心して通行できる橋梁を守るため、定期点検を行っています。新しい道ができた！新しい橋ができた！などと比べると点検は地味で目立たない存在ですけど、実は大切なことをやっています。